

2025年度 定例会のご案内



第46回 ダマスカス遠望 (オンライン参加可能)

と き: 5月24日(土)

と ころ: 松本市 勤労者福祉センター 2-5会議室

趣 旨: 世界の中でのダマスカスの文明論的位置づけとして、ダマスカス・ローズ、剣、タイル、織、ヒジャーズ鉄道
等など、広い視野でシャーム(シリア)の過去から未来へを透視する。

プログラム

13:00 受付開始

13:15~13:30 三浦徹 信州イスラーム世界勉強会代表(お茶の水大学名誉教授)
「明治・大正・昭和の日本と中東・イスラーム世界の交流から」

13:30~15:00 若林啓史 早稲田大学地域・地域間研究機構招聘研究員・京都大学博士
「ダマスカス遠望」

15:15~ 質疑応答 16:00頃終了予定

第47回 みんなく創設50周年記念企画展を見に行こう!

~企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」~

と き: 6月14日(土)

と ころ: 国立民族学博物館 (大阪府吹田市)

プログラム

13:00 国立民族学博物館 現地集合

13:00~15:00 企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」・館内見学(常設展西アジアなど)
黒田賢治グローバル現象研究部・助教の企画展解説・引率つき

15:00ころ現地解散

第48回 分断と混沌の世界に立ち向かう~ウクライナ、ガザ、イスラエル、米国、そして日本~

(オンライン参加可能)

と き: 7月19日(土)

と ころ: 松本市 M ウィング(松本市中央公民館)

趣 旨: 世界のあちこちで、分断や混迷が強まっている。そのことと、イスラエル・パレスチナやウクライナ・ロシア・EUに渦巻く不信や不合理とがどのように関連しているのか。さらに、米トランプ政権が引き回す世界・中東はこれからどう変動していくのか。米中関係は日本の将来にどのような影を落とすだろうか。独り勝ちに見えるイスラエルの将来は?イスラエル批判は、かつてのナチのアウシュヴィッツに繋がる反ユダヤ主義なのか。このような混沌とした世界の中で、私たちは何を目指し、どのように動いたらよいのか。札幌や長野・山梨・滋賀などで活動する市民団体の方々のスピーチと、分断の淵源を探る研究者の講演とを起点に、分断と不信を乗り越える道を考える。

プログラム 13:30~17:00 (予定)

- スーザン・アブルハワー氏(作家、米在住パレスチナ人)の演説(日本語字幕付録画)を視聴
- 市民団体をつなぐ:スピーチ(活動と展望)
パレスチナ連帯スタンディング(札幌) / Free Gaza 北杜(北杜市) / 本読みデモ(松本市) / BDSグループ(大津市)
- 講師: 永原陽子(京都大学名誉教授)(アジア・アフリカ史) 植民地主義を軸に
下村由一(千葉大学名誉教授)(ドイツ近現代史) 反ユダヤ主義を軸に
- 質疑・討論

第 49 回 展覧会「パレスチナの悲しみと日常～マンガと絵日記をとおして～」 戦争と闘う美術の力 ふたたび

と き:9月25日(木)～28日(日) 9:00～17:00

ところ:松本市美術館

継続展示 9月30日(火)～10月5日(日) マツモトアートセンターにて継続展

趣 旨:PHAP(パレスチナハートアートプロジェクト)と共催で、昨年「パレスチナに光はあるか」でも展示した
難民キャンプの子どもたちが作成した4コマ漫画(日本語訳付)と、パレスチナ画家 Sohail Salem、
Raed Issa がパレスチナのカザ侵攻以来、非難と難民生活の中で毎日記録した絵日記をまとめて展示
します。子供たちの描いたマンガ、アーティストの作品から、パレスチナの過去と現在を考えます。

第 50 回 「アラビア書道の宇宙:出会う、知る、観る、習う」(対面参加のみ)

と き:12/6(土)～12/7(日)

ところ:松本市 M ウィング(中央公民館)

趣 旨:アラビア書道は、神の言葉(コーラン)を美しく表す文字として、千年以上にわたって創りあげられた、洗練さ
れた空間の芸術です。現地でこれを学び、国際的な書道家として名高い本田孝一氏が、信州に来訪し、
その魅力を語り、手ほどきをなされます。

プログラム:

12月6日(土) 14:00～17:15 講演・対談・作品鑑賞・質疑

対談者は、若き日に本田孝一氏とともに砂漠を踏査した堀内正樹氏(元成蹊大学文学部教授、文化人類学。諏訪市出身)

12月7日(日) 10:00～13:00 アラビア書道ことはじめ 筆(竹ペン)づくりから作品制作までの実技指導
(要講習費)